



カンボジアだより

その1 アジア未来学校の近況

当基金のカンボジアの識字学校・アジア未来学校では、これまでに約100人の生徒が、カンボジア教育・青年・スポーツ省制定の識字教育課程を終了し、隣村の公立ルセイサン小学校に編入して、みな元気に通学しています。したがってアジア未来学校の方は生徒数が大幅に減り、現在1クラス6人から9人のクラスが二つになっています。以前にもニュースレターで申し上げましたが、識字教育課程の教科書は初級、第一、第二、第三の4冊からなっていて、二つのクラスはそれぞれ初級と第一を勉強しています。人数が少ないので、できない子を先生だけでなくほかの生徒がみんな教えてという微笑ましい光景も見られ、落ちこぼれの心配は全くありません。この子たちが教科書第二、第三と進み、課程を終了してルセイサン小学校に転入する日が楽しみです。

その2 今後の活動について現地に提案

このように、アジア未来学校はその存在意義はあるものの、以前に比べると大幅に規模が縮小しています。そこで、当会の財政状況に見合った新しい活動を展開したいと考え、当会の業務委託団体であるポンロック・タマイに対して、ルセイサン小学校の授業の質の向上を含めた、いくつかの提案をおこないました。これから現地で具体化の検討をして貰う段階です。

その3 事務所の仮移転

ポンロック・タマイの事務所が仮移転しました。12月に入り、大家さんから突然月末での契約解除の申し入れがありました。代わりを探す間もないので、とりあえずポンロック・タマイのディレクターであるリティ氏の自宅に器材と車を移動しました。このことで問題なのは、リティ氏へのご迷惑のほか、インターネット接続ができなくなったことです。（日本との連絡にはパソコンの電子メールを使っていますので。）幸いにプノンペンにはインターネットカフェがたくさんあるので、当面はリティ氏が毎日そこでメールの確認をして下さることになり問題は解決しましたが、不便になったことは確かです。代替りの事務所設置については、リティ氏の本来の勤務先である工業・鉱山省の移転の話と、今後当会の活動が、現在の場所と違った所へも展開する可能性も含め、しばらく様子を見ることになりました。（大澤）

～目	次～
カンボジアだより	1
・アジア未来学校の近況	
・今後の活動について現地に提案	
・事務所の仮移転	
ウガンダの暮らし	2
卒業にあたって	5
スタッフ紹介	
事務連絡	6

ウガンダの暮らし

JICA 専門家 河内伸介

かれこれ5年近く勤めていた NGO を退職した後、専業主夫をしていた私が単身ウガンダに到着したのは、2005年9月のことです。国際協力機構（JICA）の技術協力専門家として、首都カンパラにある AICAD（African Institute for Capacity Development）という機関に派遣されました。任期は1年10ヶ月。久しぶりのアフリカに、ただただ興奮していたように記憶しています。

カンパラは、10年以上前に一度訪れたことがあります。印象が大分変わりました。物価が高くなったけれども、通貨は安定し、町中の灯りが非常に増えたのには、いささかびっくりです。ボダボダと言われるバイクタクシーが出現し、ケニアの資本に加えて至る所で南アフリカの資本がどんどん流入していました。あと、温暖化の影響で、これまでハマダラ蚊がいなかった高地でマラリアが流行し、深刻化しているのも、以前なら考えられなかったことです。

変わらないのは、緑に覆われた大地と治安のよさです。少なくとも北部を除けば、乾季になっても緑はなかなか消えず、食料はあるのではと単純に考えてしまいます。また、夜、外を歩いても大丈夫な町というのは、アフリカの大都市とは思えません。気候の良さ（昼間の気温は年中 20℃～29℃です）も、以前と変わらず、住みやすい町だなと実感させてくれます。

さて、私の配属先である AICAD は、日本政府が実施しているプロジェクトの支援先で、「アフリカ 人造り拠点計画」という大仰な日本語名が付いています。本部はケニアにあり、ケニア、タンザニア、ウガンダという東アフリカ3ヶ国でプロジェクトが実施されています。

2000年より始まった同プロジェクトは、3ヶ国からの拠出金で管理費、日本政府の資金援助で事業費を賄うというコンセプトの下、2007年7月にフェーズⅡが終了し、その後はフェーズⅢに入ることがほぼ確認されています。3ヶ国の15大学と連携し、貧困削減に資する研究・研修の推進、およびそういった情報の蓄積・発信を活動の中心に掲げて来ました。

具体例を挙げましょう。研究部門は、栄養価の高いサツマイモの品種改良、エイズの抗レトロウイルス薬開発、スラムにおけるゴミ問題対策研究、中等教育における女子の就学率向上に向けた取り組み等々、多岐に渡っています。一方、研修部門では、需要の高い灌漑水資源管理や食品加工・市場調査等の研修



活動風景（村のおばちゃんに聞き取り）

サツマイモの品種改良と養豚の組み合わせに関する研究を村のおばちゃんたちと一緒に進めている。

が実施されている他、農村女性の自立に向けた研修や HIV 感染者の栄養改善プログラム等も計画されています。研究は全て草の根レベルのコミュニティグループと共に活動することが求められ、また研修事業の最終受益者もコミュニティグループとなっています。

とはいうものの、コミュニティと共に活動するというのは、特に大学関係者にとって、苦手なようです。モニタリングのために研究者と一緒にコミュニティを訪問した時、当該研究者がコミュニティに行ったことがない、あるいはコミュニティの場所すら知らないということが何度かありました。テーマだけを聞くと、実に面白そうな研究内容なのですが、如何せんコミュニティとの結びつきが希薄なのです。そんなものは、研究のための研究でしかありません。少なくとも、貧困削減に資する研究として助成する意味はなかろうかと思えます。



東部の町ムバレにて

左の二人がマケレレ大学の学生。そのひとりの家族宅で撮影。中央の腰布を巻いているのは割礼を終えた少年。あそこが痛いので、しばらくはズボンが穿けません。

した。10年以上前、青年海外協力隊員として赴任していた隣国ケニアとついつい比べてしまうのですが、この違いは何なのかなと思います。国の違いではないのでしょうか。NGOで永らく勤めていたスタッフが職場の雰囲気を与える影響があるのかもしれませんが。

なお、現在の勤務先は、首都カンパラのマケレレ大学内にあります。ケニア、タンザニアに先駆けて創設された同大学は大変なエリート校で、今のケニア、タンザニアの大統領はこの卒業生です。ただ、政府が支給していた奨学金が大幅に削られ、以前のような貧困家庭出身者は激減したと聞きます。先日のクリスマス休暇には、そういった学生3名の実家を訪問しました。何れも、この家からどうやってあの学校に入ったのかと思えるような極貧家庭でした。また、大学の金権体質化も相当進んでいるようで、しょっちゅうメディアに叩かれています。定期試験を受けられなかった学生に対する追試の金額が30倍に上がり、その決定に反対した学生が1名、デモで死んだのは2005年10月のことでした。

こういう状況ですが、現在の職場は働きやすい環境だと日々感じます。私の仕事は、先述した活動全体を取りまとめることにあり、事業部門のスタッフだけでなく、経理や調達、ドライバーも含め、7名の同僚全員と一緒に働いているのですが、何よりも驚いたのは、スタッフがよく働くことです。残業、休日出勤を普通にこなし、納期を守る意識が非常に強いのは、全くたまげました。

「何々が無いから出来ない」とは言っても、「だから、やらない」とは言わず、何とか出来る方法を探して来る態度は、「ここは本当にアフリカなのか（失礼!）」と思わせるに充分で

明るい話題にしましょうか。

私はケニアに、かみさんはタンザニアにいたためか、二人でケニア、タンザニアとウガンダを比べることがよくあります。二人が一致して、ウガンダはどれも違うぞと思ったのは、白人や金持ちインド人が出入りするような所（ショッピングモールや高そうなレストラン）に、地元のウガンダ人が多くいることです。独立後、社会主義でみんな一様に貧しかった所からスタートしたタンザニアとは随分違います。タンザニアで金持ちというのは、基本的に「成金」で、何か悪いことをした人が多いように思いますが、ここウガンダでは生まれ落ちた時から既に金持ちであったウガンダ人が結構いるのかなという印象を強く持ちます（どちらが良いというものではないでしょうが）。

あと、ウガンダの女性はおしゃれですね。美に対する執着というのが結構すごいと思うことが多々あります。2005年、東アフリカ3ヶ国を対象にした”African Woman”というファッション雑誌がウガンダで発刊されたのですが、これがまあセンスが良くて面白いものでした（うちのかみさんは定期購読者です）。

最後に食べ物の話をしましょう。主食はバナナです。甘くないバナナ（マトケと言います）をその葉で包み、蒸したものに落花生を潰したソースをかけます。これが一番人気の主食です。他には、トウモロコシやソルガムの粉で作った練粥、コメ（長粒種を炊きあげる）、キャッサバ、ヤムイモ等が主食になります。多くのアフリカ諸国同様、一番高いのは鶏肉、安いのは牛肉ですが、普段は食べません。野草の類はそれ程多くありませんが、野菜は豊富にあると言えます。果物類は、何ととってもパイナップルですね。東南アジアより美味いと断言できる果物は多くありませんが、そのひとつと言ってよいでしょう。あと、雨季になるとセネネ（キリギリス）が大量に市場に出回ります。乾煎りして塩味をつけるか揚げるかなのですが、老若男女を問わず、おやつにおつまみに人気の味です。少なくとも、南部にいる限り、ウガンダ人は様々な食生活を楽しんでいるように思えます。（河内さんは、当基金の賛助会員です。）



African Woman

Silvia Owori というウガンダ人なら大抵知っているデザイナーが編集しています。1、2ヶ月に1回のペースで発行され、この1月に1周年特集号が出ました。



セネネ（キリギリスの類）

調理後のもの。まあ、みんな好きですね。日本のイナゴの話したら、「そんな気持ち悪いものとは全然違う」とのこと。食文化とはこういうもんでしょね。

卒業にあたって

慶応義塾大学4年 松田啓志

振り返ってみると、あっという間の大学生活でした。大学内のサークル活動に属さなかった私にとって、日韓アジア基金は大変貴重な「学外サークル」でした。暇な時間をボランティア活動に、と軽い気持ちで入ったのがそもそものきっかけです。活動開始後、わずか半年で事務局長という肩書きを貰うことになるとは夢にも思っていませんでした。今年の9月になんとか任期の2年を務め上げ、ホッとしているところです。

私が思うに、この団体の素敵なところはジュニアスタッフとシニアスタッフが活発に関わり合いながら活動をしているところです。異なる世代の人間と一緒に何かを成すという経験は、学生のあいだはなかなか得にくいものですから。3年間の活動を通して、同世代と交わるだけでは決して身に付けられないことをさまざまに吸収できたと思っています。

4月からは札幌での新生活が始まります。この会に携わる時間はグッと減ってしまうかと思いますが、北の大地から日韓アジア基金の活動を見守っていきたいと思います。最後になりましたが、皆さまには本当に感謝しております。これからも、どうぞご協力のほど、よろしくお願い致します。

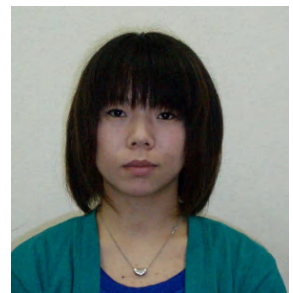
スタッフ紹介

女子美術大学1年 小林あやか

皆さん、こんにちは。去年の5月よりスタッフに参加した小林あやかです。女子美術大学の次期2年生になれそうな私は、キャンパス移動のため、現在下宿の引越しで忙しく動き回っています。

まさか自分がボランティアのスタッフをやるなんて、学校に入った当時は夢にも思っていませんでした。私はほとんど全くと言って良いほど、ボランティア団体や活動に興味を持たず、時々コンビニで釣銭を募金する程度の人でした。でも当時、某番組のある方の話を聞いて、無性に人の役に立ちたくなっていました。そしてネット上で出会ったのが日韓アジア基金の「フリーマーケットの売り子手伝い募集中」でした。「これくらいなら私にもできる…」と参加して現在に至っております。日韓アジア基金、カンボジアについての知識がほぼ皆無の状態です。スタッフ入りした私ですが、定例ミーティングやイベントに参加してだんだんとカンボジアの今や、多分野に渡る団体があることを知りました。知識や情報を教えてくれる、心優しいスタッフの皆さんに感謝です。

私はカンボジアに行ったことはありませんが、遺跡や歴史がとても好きで、アンコールワットなどそのうち行ければいいな…と思っています。私は今年から版画専攻で、仏教、イスラム系統のエスニックな作品を制作していく予定です。民族的なものって魅力的ですよ、デジタルでない所が良いんです(笑)。日韓アジア基金に参加して、作品的な視野も広がったと思っています。今から作品を溜めて行って、数人の友人達と個展を開きたいな…と企んでいるこの頃です。



新年初のフリーマーケットに出店しました。 ジュニアスタッフ有志

1月7日(日)、ジュニアスタッフ有志は明治公園のフリーマーケットに出店しました！天候にも恵まれ多くのお客さんに立ち寄って頂き、その結果39,152円の収益をあげることができました。この売上金はすべて基金に寄付し、カンボジアでの活動資金になります。商品をご提供くださった皆さまに、厚く御礼申し上げます。次回は4月下旬に出店する予定です。下記の商品を募集しますのでご協力をお願い致します。

未使用のタオル・シーツ・カバー類、食器(輸送時に壊れることがあります。梱包に配慮して下さい。)、バッグ類。なお衣服は既に十分な量を頂いておりますので、勝手ではございますが、今回は送らないで下さい。

ご協力下さる方は、「フリーマーケット商品」と記入して以下までお送り下さい。誠に申し訳ございませんが送料はご負担下さい。

〒156-0055 世田谷区船橋 1-3-17 井内和夫 03-3429-8897

06年10月～12月に会費・ご寄付を下さった方(敬称略・別枠を除き五十音順)

縣 勇兵	内田 雄之	下里 裕美子	中川 敦司	藤井 陽子	満井 啓二	山越 栄子	渡部 友理恵
荒川 雄彦	大澤 龍	高柳 直正	中田 邦雄	細川 敦子	宮本 直実	吉崎 秀一	
今西 淳子	王 嶺	崔 貞美	中谷 雄	堀内 和子	森 健造	李 香	
岩見 豊子	黒巢 香	佃 吉一	藤井 猛史	堀場 秀亨	柳田 文子	若宮 英生	

日本聖公会川越キリスト教会

06年10月～12月にフリーマーケットの商品をご提供下さった方(敬称略・五十音順)

岩見 豊子	植原 光子	金本 容子	田中 慶子	塚本 美和子	春山 猷子	細川 敦子	谷池 教子	吉田 恵美子
-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	--------

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員：年会費 5,000 円(学生、未成年者 2,000 円)
 賛助会員：年会費 1口 5,000 円(学生、未成年者 1口 2,000 円)
 法人会員：年会費 1口 10万円
 ご寄付：2,000 円以上おいくらでも

<郵便振替口座>
番号：00180-2-25153
名義：日韓アジア基金

- ・活動会員：活動に積極的にご参加いただける方
- ・賛助会員：定期的にご支援いただける方

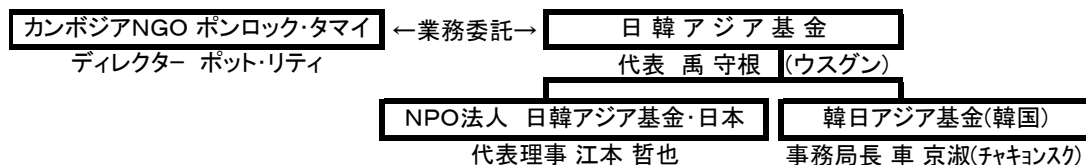
ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。

国内経費は全額スタッフ有志の寄付によっており、外部の方からのご支援は全てカンボジアでの活動に充てております。

<お問い合わせ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
 Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
 E-メール:iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp HP: http://www.iloveasiafund.com/japan/

参考：日韓アジア基金の組織



発行人：特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也